

# 西根観音堂



このお堂は江戸時代の宝暦8年（1758）に建てられたもので、屋根の形状は入母屋風の二重屋根である。現在は瓦葺であるが、かつては徳次郎石を用いた石瓦葺であった。

堂内には木造に金箔が施された、総高180cmの堂々たる聖観音（聖観世音菩薩）立像が安置されている。この観音様はお堂と同年に、西根寒念仏講中（信仰組織）によって建立された。右手に施無畏印（恐怖心を取り除く）、左手に拳印（意志を示す）を結んでおり、人々の苦悩を受け止め、迷い、苦しみから救うお姿をしている。

仏像を制作したのは、宇都宮馬場町の大仏師高田運応である。運応は江戸時代下野国で最も活躍した仏師の家系、高田運晴の6代目に当たる。

かつてこのお堂において、お釈迦様の誕生を祝う「花祭り」や、地獄の釜が開く日に行灯を供える「一万灯」などの行事が行われていた。

